

NPO／特定非営利活動法人

放送批評懇談会

第20回通常総会議事録

- 第一号議案 議長の選任
- 第二号議案 放送批評懇談会 2023 年度事業報告
- 第三号議案 放送批評懇談会 2023 年度決算報告
- 第四号議案 放送批評懇談会第 20 期 21 期役員
- 第五号議案 放送批評懇談会 2024 年度事業計画
- 第六号議案 放送批評懇談会 2024 年度収支予算

放送批評懇談会

2024年3月20日



特定非営利活動法人放送批評懇談会

<第20回通常総会>

■開催日 2024年3月20日

■会場 オンライン開催

■会勢 <正会員>
195名 (入会7名、退会12名)
<維持会員>
138社 (入会1社)

■出席者 37名
家田利一 石田研一 石橋さや夏 市村 元
出田幸彦 岩根彰子 奥 律哉 音 好宏
風間恵美子 加藤久仁 茅原良平 川喜田尚
国枝智樹 五井千鶴子 上滝徹也 小林 毅
齋藤千明 境真理子 桜井聖子 鈴木健司
滝野俊一 長井展光 仲宇佐ゆり 中島好登
丹羽美之 服部洋之 桧山珠美 福島俊彦
藤田真文 古川柳子 堀木卓也 水島宏明
山家誠一 山田健太 柳 志暎 渡邊 悟
渡邊久哲

■委任状提出者 82名

■出席予定者と委任状提出者で計119名



第一号議案 議長の選任

定款第27条「総会の議長は、その総会に出席した正会員の中から選出する」の規定に則り、出席の正会員の中から、「堀木卓也氏」を合議により選出。

第二号議案

放送批評懇談会

2023 年度事業報告



2023年度総務事業報告

1. 会員管理、会議運営、事務局業務を行い、事業部門の活動を支援しました。
2. 放送批評懇談会 60 周年
60 周年事業担当の川喜田尚専務理事、藤田真文常務理事を中心に、60 周年事業を敢行しました。

①放送批評懇談会 60 周年記念賞

受賞者：タモリ

「放送批評懇談会 60 周年記念賞」は、広く放送文化、放送業界で大きな功績のあった作り手、出演者、組織、番組等を顕彰の対象として、放送批評懇談会正会員の推薦をもとに選考しました。選考委員会は、常務理事会と選奨事業委員会委員長・部門委員長（音好宏、川喜田尚、藤田真文、出田幸彦、桜井聖子、古川柳子、家田利一、茅原良平）が務めました。

②放送批評懇談会 60 周年記念式典

2023 年 5 月 31 日（水曜日）第 60 回ギャラクシー賞贈賞式中に「放送批評懇談会 60 周年記念式典」を執り行いました。60 周年記念映像、来賓挨拶、60 周年賞贈呈で構成しました。（演出および映像作成・入江たのし、構成台本・中島好登）

③放送批評懇談会ギャラクシー賞 60 年史

ギャラクシー賞 60 年の記録（受賞番組、受賞者コラム、贈賞式写真など）、放送批評懇談会 60 年の活動記録（年表、理事・委員リスト、刊行物一覧など）を一冊に編集し、冊子版と電子版で刊行しました。編集業務には広報委員会、事務局が当たりました。（編集人・滝野俊一、編集長・石橋さや夏、カバーデザイン・高橋弘将）

<冊子版>

2023 年 11 月 30 日発行

B5 判／496 ページ／印刷部数 1400／頒価 5000 円（税込）

<電子版>

2023 年 12 月 13 日発売

496 ページ／頒価 4000 円（税込）



④放送批評懇談会・ギャラクシー賞60周年特別サイト

ホームページに「放送批評懇談会ギャラクシー賞60周年特別サイト」を開設し、60周年関連の情報を掲載しました。

3. 「ザ・ベストテレビ2023」「ザ・ベストラジオ2023」

国内の放送番組コンクールで高い評価を受けた作品を放送するNHK「ザ・ベストテレビ2023」（ドキュメンタリー限定）、「ザ・ベストラジオ2023」に協力しました。

「ザ・ベストテレビ2023」はNHK・BS1で2023年11月20日（月）から25日（土）に放送されました。第60回のギャラクシー賞は大賞はドラマ作品だったため、第2部11月21日（火）AM9:00～1時間10分のなかで、ダイジェストで優秀賞、選奨受賞のドキュメンタリー作品が紹介されました。

「ザ・ベストラジオ2023」はNHK FMで2023年12月29日（金）に放送され、第60回ギャラクシー賞ラジオ部門大賞の琉球放送/RBCi ラジオスペシャル「ダニーボーイ・齋藤梯子、ジャズと生きる」、同優秀賞のFM TANABE/講談風大河ラジオドラマ「弁慶記」が放送されました。

4. 第21回日韓中テレビ制作者フォーラム

韓国・坡州（ぼじゅ）出版都市にて「第21回日韓中テレビ制作者フォーラム」が2023年11月8日（水）～11日（土）の日程で開催されました。コロナ禍を経た久しぶりのリアル開催となり、会場には延べ300人を超える人々が集まりました。この大会に正会員2名と事務局員1名を派遣し、大会の成功に寄与しました。

主催は全日本テレビ番組製作社連盟（ATP）、放送批評懇談会、韓国PD連合会、中国電視芸術家協会でした。

5. 公式ホームページおよびGメンバーサイト（会員サイト）を運営しました。

6. 広報委員会と連携して、フェイスブック、X（旧ツイッター）、インスタグラムでの情報発信を担当しました。



7. 「GALAC」「60年史」などの販売を行う放送批評懇談会オンラインショップを運営しました。



2023年度出版編集事業報告

1. 2023年度は下記のメンバーで運営しました。

委員長	鈴木健司
副委員長	国枝智樹 渡邊 悟
委員	岩根彰子 梅田恵子 鈴木 昭 高堀冬彦 戸部田誠 西川博泰 服部洋之 三谷実可
編集スタッフ	中島好登 福島美子 山本夏生 齋藤茜里

2. 毎月6日に「GALAC」プリント版（4000部程度）と電子版で発行しました。

- 1) 特集テーマは以下のとおりです。

2023年 7月号	第60回ギャラクシー賞発表
2023年 8月号	第60回ギャラクシー賞贈賞式
2023年 9月号	WBCが提示した野球の魅力 ／第60回ギャラクシー賞大賞受賞者の声
2023年 10月号	メディアのなかのLGBTQ+
2023年 11月号	変わる日本語、ゆれるコトバ
2023年 12月号	ウェブCMの現在 ／ケーブルテレビ新ビジョン
2024年 1月号	第61回上期ギャラクシー賞
2024年 2月号	2024ドラマ、ニュートレンド
2024年 3月号	アイドルと日本社会 旧ジャニーズ問題・考
2024年 4月号	AIと放送／山田太一の遺したもの
2024年 5月号	能登半島地震 その時、メディアは
2024年 6月号	“共同制作”新時代

- 2) 2023年度はコロナ禍も一応の収束をみて、編集・取材活動はほぼ元通りになりました。しかし人々のコミュニケーションやメディアとの付き合い方は大きく変わり、特に放送メディアとネットメディアとの関係性はよりボーダレスなものになっていきました。その前提に立ちつつ、「GALAC」全体のコンセプトについては前年度から大きく変えることなく、「放送（コンテンツ）を多角的に見つめ、健全な批評精神を発揮する」という基本



的な編集方針のもと、国内外の社会状況を注視しつつ、あくまで放送界のトピックス、諸問題をメインに、各情報メディアの動きとともに検証・考察していくという方針で臨みました。具体的には、特集記事の構成はもとより、単発記事や連載のテーマに関して、ネット（配信、SNS等）の動向を意識したものを企画・掲載するように心がけました。

3. KADOKAWA（プリント版）、ブックウォーカー（電子版）にて販売を行いました。また、放懇オンラインショップ、富士山マガジンサービスでの直販に努めました。
4. インターネット対応について
 - 1) ニュースサイト「東洋経済オンライン」「InterBEE マガジン」に記事の提供を行いました。
 - 2) Gメンバーサイトに引き続き電子版を提供しました。



2023年度選奨表彰事業報告

1. 2023年度は下記の委員で運営しました。

選奨事業委員長 出田幸彦

<テレビ部門委員会>

委員長 古川柳子

副委員長 桧山珠美

委員 石田研一 永 麻理 太田省一 岡室美奈子

影山貴彦 加藤久仁 戸田桂太 並木浩一 藤田真文

松田健次 松山秀明

<ラジオ部門委員会>

委員長 桜井聖子

副委員長 仲宇佐ゆり 山田真嗣

委員 石井育子 井上佳央里 川喜田 尚 北郷裕美

下田まり子 真銅健嗣 永須智之 松崎泰弘

三原 治

<CM部門委員会>

委員長 家田利一

副委員長 風間恵美子

委員 伊藤健志 今宿裕昭 片桐 理 川野康之 木下一郎

生野 徹 中島和哉 野上信子 平岩モトイ

村田玲子 山下治城

<報道活動部門委員会>

委員長 茅原良平

副委員長 長井展光

委員 市川哲夫 市村 元 小泉世津子 齊藤潤一 塚本 茂

西島泰三 樋口喜昭 平岩 潤

選奨事業委員会担当事務局 福島美子 齋藤茜里 山本夏生

2. 第60回および61回ギャラクシー賞各部門の選考のため、以下の作業を行いました。

<テレビ部門委員会>

- ・2023年4月から2024年3月まで、毎月月評会を開き月間賞4本



を選びました。

選考結果を「GALAC」誌上に月間賞選評および番組短評一覧として発表しました。また毎月2本、テレビ番組全般についての評論を「私評」として掲載しました。毎月20日を情報解禁日とし、月間賞の選考結果をプレスリリースしました。

- 2023年3月11日～29日、4月8日～18日に、第60回下期自薦作品218本を視聴。4月23日、月間賞(24本)と自薦作品の中から下期入賞作品7本を選出し、上期選出の7本と合わせた14本(大賞1本、優秀賞3本、選奨10本)を入賞作品として決定しました。同時に特別賞、個人賞も選出しました。
- 2023年9月9日～27日、10月7日～20日に、第61回上期自薦作品171本を視聴。10月29日、月間賞(24本)と自薦作品の中から上期入賞作品7本を選出しました。

<ラジオ部門委員会>

- 2023年4月から2024年3月まで、毎月合評会を開催してラジオについての合評を行いました。
- 2023年4月、第60回下期44本の自薦作品を聴取し、4月17日、18日に各カテゴリーの下期入賞候補作品を選出しました。
- 4月24日、上期下期を合わせた候補作品の中から入賞作品8本(大賞1本、優秀賞3本、選奨4本)を選出しました。同時にDJパーソナリティ賞も選出しました。
- 2023年10月、第61回上期51本の自薦作品を聴取し、10月27日、31日に各カテゴリーの入賞候補作品を選出しました。

<CM部門委員会>

- 2023年4月から2024年3月まで、毎月定例会を開催してCMについての合評を行いました。
- 2023年4月19日、下期87本(テレビ)、39本(ラジオ)、26本(ウェブ)の自薦作品を視聴し、13本の下期入賞候補作品を選出しました。続いて最終選考会を行い、上期下期合わせた中から入賞作品13本(大賞1本、優秀賞3本、選奨9本)を選出しました。
- 2023年10月26日、上期59本(テレビ)、30本(ラジオ)、41本(ウェブ)の自薦作品を視聴し、13本の上期入賞候補作品を選出



しました。

<報道活動部門委員会>

- 2023年7月13日に委員会をオンラインで開催して、報道活動についての情報交換を行いました。
- 2024年1月30日に委員会をオンラインで開催して、報道活動についての情報交換を行いました。
- 「GALAC」連載ページを委員が分担し、全国各地における報道活動の紹介、各局報道活動への期待、特定のテーマに関する報道活動についての論考などを執筆しました。
- 2023年4月22日、第60回下期16本の自薦作品を視聴し、7本の下期入賞候補作品を選出しました。続いて最終選考会を行い、上期下期合わせた中から入賞作品6本（大賞1本、優秀賞2本、選奨3本）を選出しました。
- 2023年10月30日、第61回上期11本の自薦作品を視聴し、3本の入賞候補作品を選出しました。



2023年度企画開催事業報告

1. 2023年度は、下記の委員で運営しました。

委員長 水島宏明

副委員長 奥 律哉

委員 氏家夏彦 長井展光 新美妙子 本橋春紀

柳川素子 渡邊 悟

2. 2023年度は、「ChatGPT を使いこなせ！～放送現場の生成AI 攻略法」というテーマで、2023年10月25日にオンラインセミナーを開催しました。

- (1) コロナ禍以降、オンライン形式が定着したことや地方からの参加のしやすさを考慮し、ビデオ会議システム（Zoom ウェビナー）の導入、感染対策を徹底した上での少人数によるスタジオ生配信の運営など、2020年度から4回連続でオンラインセミナーを開催したことにより、その方法論やノウハウを発展させることができました。
- (2) 受講料はオンラインセミナーの適正な価格帯を慎重に検討し、正会員 2000 円、維持会員（および維持会員の加盟社）3000 円、一般 5000 円とし、新たに学生 1000 円も加えました。
- (3) 注目度の高いネット・配信系のテーマをタイムリーに設定したこともあり、民放地方局などの関係者を中心に好評を得ました。定員 200 名のところ 123 名の申し込みがあり、オンライン形式で支出を抑制することができて、最終的な収支も黒字化を達成することができました。

3. セミナーの概要は以下の通りです。

放送批評懇談会セミナー2023

タイトル：「ChatGPT を使いこなせ！

～放送現場の生成AI 攻略法」

日 時：2023年10月25日（水）17：30～20：00

形 式：オンライン（Zoom ウェビナー）

NPO放送批評懇談会



第20回通常総会 2024

定員：200名

受講料：一般5000円、維持会員3000円、正会員2000円、学生1000円

講演者：西脇資哲(日本マイクロソフト株式会社エバンジェリスト・業務執行役員)

質問者：角田洋子(日本テレビ)、林理恵(フジテレビ)
渡邊悟(NHK)

モデレーター：柳川素子(放送批評懇談会 企画事業委員)



2023年度広報事業報告

1. 2023年度は、下記の委員で運営しました。
委員長 滝野俊一
委員 飯田みか 石橋さや夏 汲田亜紀子 小林英美
西川博泰 西森路代 柳川素子
事務局 中島好登 齋藤茜里
2. 公式ホームページの充実に努めました。「ドラマ座談会」は“まとめ編”を含めて1クール2回実施し、アクセス数アップにもつながりました。
3. X（旧ツイッター）、インスタグラム、フェイスブックといったSNSやYouTubeを使った広報活動に力を入れ、ギャラクシー賞や「GALAC」、放懇セミナーなど会の事業のパブリシティに努めました。X（旧ツイッター）が7,789人、インスタグラムが1,851人、フェイスブックが998人とフォロワーも順調に増えました。また、YouTube公式チャンネルのチャンネル登録者数も5,410人と増えています（いずれも2月29日現在）。
4. 第60回ギャラクシー賞贈賞式のYouTubeライブ配信を実施しました。視聴回数は112,681回を記録し、前年の3倍近くになりました。
5. 第60回ギャラクシー賞贈賞式で撮影した受賞者のインタビュー動画を、後日、YouTube公式チャンネルに配信しました。
6. 準会員制度「放送批評懇談会 オンライン会員 Gメンバー」（以下、Gメンバー）の運営を行い、「マイベストTV賞」の投票を毎月実施しました。また、Gメンバーサイトのセキュリティを高めるために、12月に新しい電話認証システムを導入しました。Gメンバーの会員数は1,040名（2月27日現在）。
7. 「放送批評懇談会ギャラクシー賞60年史」の編集を行い、冊子



版は11月30日に発行し、電子版も12月13日に販売を開始しました。

8. 「放送批評懇談会&ギャラクシー賞60周年イヤー」として、4月から特設ウェブサイト进行設けるなど積極的な広報活動を展開しました。
9. 2011年にスタートしたX（旧ツイッター）「マイベストTV君」は担当委員の任期満了をもって、2024年3月31日に更新を終了しました。

第三号議案

放送批評懇談会

2023 年度決算報告

収 支 計 算 書

2023年1月1日～2023年12月31日まで（単位：円）

科目	予算額	決算額	差異
I. 収入の部			
1. 会費等収入			
会費収入	3,000,000	3,053,117	△ 53,117
維持会費収入	42,500,000	41,125,001	1,374,999
GMNパ-会費収入	200,000	551,957	△ 351,957
2. 事業収入			
選奨表彰事業収入	33,000,000	36,202,477	△ 3,202,477
企画開催事業収入	600,000	643,000	△ 43,000
周年事業収入		8,780	△ 8,780
3. その他の収入			
出版編集事業収入	6,000,000	6,804,282	△ 804,282
広告料収入	2,500,000	1,355,000	1,145,000
4. 雑収入			
受取利息	0	920	△ 920
雑収入	0	0	0
5. 退職金関連 保険満期返戻金			
当期収入合計	87,800,000	89,744,534	△ 1,944,534
II. 支出の部			
1. 事業費			
選奨費	8,000,000	7,418,622	581,378
式典費	13,000,000	14,064,476	△ 1,064,476
企画開催費	400,000	450,764	△ 50,764
原稿料	5,500,000	5,369,067	130,933
編集費	4,300,000	4,054,481	245,519
雑誌印刷費	19,800,000	18,420,380	1,379,620
発送費	2,600,000	2,470,986	129,014
2. 管理費			
給料手当	22,000,000	23,322,988	△ 1,322,988
人件費	1,000,000	120,200	879,800
法定福利費	3,500,000	3,317,895	182,105
福利厚生費	100,000	275,631	△ 175,631
旅費交通費	500,000	523,001	△ 23,001
通信費	570,000	591,747	△ 21,747
資料費	50,000	53,040	△ 3,040
会議費	80,000	142,214	△ 62,214
水道光熱費	300,000	273,710	26,290
事務用品費	70,000	70,291	△ 291
消耗品費	220,000	205,028	14,972
備品費	700,000	938,367	△ 238,367
諸印刷費	450,000	420,090	29,910
広報費	750,000	1,757,508	△ 1,007,508
支払手数料	220,000	255,334	△ 35,334
賃借料	4,100,000	3,999,139	100,861
保険料	400,000	385,760	14,240
交際費	70,000	118,926	△ 48,926
雑費	1,000,000	1,001,480	△ 1,480
諸会費	150,000	151,644	△ 1,644
租税公課	70,000	53,500	16,500
退職給付引当金繰入	1,000,000	1,000,000	0
当期支出合計	90,900,000	91,226,269	△ 326,269
当期収支差額	△ 3,100,000	△ 1,481,735	△ 1,618,265

60周年特別会計 収支計算書
2023年1月1日～2023年12月31日まで（単位：円）

科目	2023予算	決算額	差異
I. 収入の部			
志賀基金取崩益	6,000,000	5,936,492	63,508
当期収入合計	6,000,000	5,936,492	
II. 支出の部			
ギャラクシー賞60年史 贈賞式（拡張分）	5,000,000	5,259,992	△ 259,992
	1,000,000	676,500	323,500
当期支出合計	6,000,000	5,936,492	63,508
当期収支差額	0	0	0

貸借対照表
2023年12月31日現在（単位：円）

科目	金 額		
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	68,382,750		
未収入金	2,653,500		
前払金	372,621		
所有物	286,625		
流動資産合計		71,695,496	
2. 固定資産			
賃借権利金等	202,653		
差入保証金	4,099,500		
特定資産			
志賀基金	54,400,772		
退職給付引当金	10,404,926		
固定資産合計		69,107,851	
資産合計			140,803,347
II. 負債の部			
未払金	7,796,654		
前受金	5,102,499		
預り金	1,286,562		
仮受金	22,161,410		
退職給付引当金	10,404,926		
負債合計			46,752,051
III. 正味財産の部			
志賀基金	100,000,000		
その他の正味財産	△ 5,948,704		
正味財産合計			94,051,296
(うち基本金)			0
(うち当期正味財産増加)			△ 7,418,227
負債及び正味財産合計			140,803,347

正味財産増減計算書

2023年1月1日～2023年12月31日まで（単位：円）

科目	金 額		
I. 増加の部			
1. 資産増加額			
前払金増加額	372,621		
賃借権利金増加額	135,101		
特定資産増加額	157		
2. 負債減少額			
増加額合計		507,879	
II. 減少の部			
1. 資産減少額			
未収入金減少額	309,000		
現金預金減少額	3,388,196		
1. 負債増加額			
前受金増加額	359,999		
預り金増加額	81,773		
未払金増加額	2,787,138		
退職給付引当金増加額	1,000,000		
減少額合計		7,926,106	
当期正味財産増加額			△ 7,418,227
前期繰越正味財産額			101,469,523
期末正味財産額			94,051,296

第四号議案

放送批評懇談会

第 20 期 21 期役員



NPO放送批評懇談会

第20回通常総会 2024

放送批評懇談会 第20期21期役員

- 理事長 音 好宏
専務理事 川喜田尚
常務理事 藤田真文
出田幸彦 (選奨事業委員長)
桜井聖子 (選奨事業委員会ラジオ部門委員長)
理事 茅原良平 (出版編集委員長)
桧山珠美 (選奨事業委員会テレビ部門委員長)
家田利一 (選奨事業委員会CM部門委員長)
古川柳子 (選奨事業委員会報道活動部門委員長)
長井展光 (企画事業委員長)
滝野俊一 (広報委員長)
市村 元
入江たのし
岩根彰子
風間恵美子
加藤久仁
国枝智樹
五井千鶴子
小林 毅
仲宇佐ゆり
丹羽美之
水島宏明
山田健太
渡邊 悟
中島好登 (事務局長)
- 監事 上滝徹也
福島俊彦

第五号議案

放送批評懇談会

2024 年度事業計画



2024年度総務事業計画

1. 会員管理、会議運営、事務局業務を行い、事業部門の活動を支援します。
2. 正会員の加入促進
正会員の加入促進に努め、より多彩な活動を支えます。
3. 維持会員の加入促進
維持会員の増員によって会の財政基盤を強めることを目指します。
4. ホームページ、ギャラクシー賞データベースの維持管理
広報委員会と連携し、公式ホームページを維持管理し、充実を図ります。
ギャラクシー賞データベースの管理運営に当たります。
5. Gメンバー、Gメンバーサイト（会員サイト）の管理
広報委員会と連携し、「放送批評懇談会オンライン会員 Gメンバー」の管理に当たり、運営を支援します。Gメンバーサイト（会員サイト）の維持管理に当たります。
6. フェイスブック、X（旧ツイッター）、インスタグラム、YouTubeの運営管理
広報委員会と連携し、会の公式フェイスブック、X（旧ツイッター）、インスタグラムおよびYouTubeを管理、運営し放送批評懇談会、「GALAC」、ギャラクシー賞の広報に努めます。
7. 「GALAC」の編集・発行・発売
出版編集委員会と連携し、「GALAC」の編集実務にあたり、発行・発売などの業務を支えます。
8. 「GALAC」広告
出版編集委員会と連携し、「GALAC」広告の営業に努力する



ほか、スペースの有効活用について研究します。

9. ギャラクシー賞

第61回ギャラクシー賞贈賞式を2024年5月31日に開催します。

第62回ギャラクシー賞の選考活動を支援、運営に協力します。

10. 志賀信夫賞、フロンティア賞

第15回志賀信夫賞の選考、表彰を行います。

フロンティア賞の選考、表彰を行います。

11. 放懇セミナーなどのイベント

企画事業委員会と連携し、セミナーなどの企画事業の事務、運営を担当します。

12. 第22回「日韓中テレビ制作者フォーラム・中国大会」

2024年に開催が予定される「日韓中テレビ制作者フォーラム・中国大会」に協力し、大会の成功に寄与します。

13. NPO法人としての組織としての強靱化を図るため、規程の整備などを進めます。

14. 事務局の労働環境、管理・業務ならびに組織運営の規程を整備し、次世代につながる事務局体制を模索します。



2024年度出版編集事業計画

1. 2024年度は下記のメンバーで運営します。

委員長	茅原良平
副委員長	岩根彰子 長井展光
委員	阿部日向子 奥 律哉 兼井孝之 服部洋之 (若干名を交渉中)
シニアエディター	鈴木健司
編集スタッフ	中島好登 福島美子 山本夏生 齋藤茜里

2. 毎月6日に「GALAC」を発行します。本年度の運営方針は以下のとおりです。

- 1) 動画配信ビジネスの拡大とともに、「放送」というカテゴリーが大きな転機を迎えているなか、新型コロナ禍や気候変動、世界情勢の不安定化、そしてジェンダーフリーなどSDGsに挙げられているようなさまざまな社会通念の変化といった要素も加わり、メディアの役割やそのあり方が恒常的に問われています。「GALAC」はそうした状況を見据え、「放送にかかわる諸問題に対してさまざまなアプローチを行い、放送文化の向上に貢献する」という創刊以来継続してきた役割を地道に果たしながら、定期刊行メディアとしての雑誌づくりを行っていきます。さらに、数少なくなった「放送専門誌」「放送批評誌」としてその存在意義を示していくとともに、放送批評懇談会の「機関誌」として、ギャラクシー賞その他の活動を周知していく使命も果たしていきます。
- 2) 基本編集方針は、特集・連載・各選奨委員会による番組批評の3本柱で構成し、読者ターゲットである「放送にかかわるあらゆるプロフェッショナル」「放送界をめざす学生」、そして「意識の高い視聴者・聴取者」に、面白い、役に立つと感じてもらえるような記事を掲載するよう努めます。放送メディアへの接触低下が問われて久しいですが、「GALAC」が大衆と放送メディアを結びつける役割を果たせるよう、時代の変化を捉えた視点、



業界のトレンド、最新の技術動向などにも敏感に対応し、放送業界に貢献する情報を提供することを目指します。

- 3) NPO法人の発行する雑誌として、どの団体、組織にも付度しないジャーナリズム精神、自由闊達な批評精神を堅持し、あらゆるテーマにチャレンジする編集姿勢を貫きます。また、専門誌として放送にかかわるさまざまな事象を、一つの歴史として「記録」していく役割も同時に果たしていきます。
- 4) 特集ページは毎月タイムリーなテーマを選定するとともに、テレビ、ラジオ、CMのみならず、ネットメディアや衛星・ケーブルメディア、ローカル局や制作会社、そして、制度や産業の動向など、さまざまな領域に目配せし、バランスよく編成していくことを目指します。
- 5) 放送批評懇談会正会員やGメンバーなどからの意見に耳を傾けながら、柔軟かつ時宜を得た雑誌づくりに努めます。
- 6) 選奨事業委員会や企画事業委員会との連携を推進し、連動企画の実現など、放送批評懇談会の各種活動の活性化に寄与していきます。
- 7) 広報委員会との連携をさらに推進し、さまざまなチャンネルを通じて「GALAC」に関する情報収集、読者からの反応収集を継続的かつ積極的に行います。そして「GALAC」の存在感をよりいっそう高めるとともに、Gメンバーの入会促進に寄与するよう努めます。
- 8) 「GALAC」広告の営業に努力するとともに、有効活用を進めます。



2024年度選奨表彰事業計画

1. 2024年度は下記の委員で運営します。

選奨事業委員長 出田幸彦

<テレビ部門委員会>

委員長 桧山珠美

副委員長 岡室美奈子 加藤久仁

委員 影山貴彦 篠原朋子 戸部田 誠 並木浩一

西島泰三 樋口喜昭 松田健次

(若干名を交渉中)

<ラジオ部門委員会>

委員長 桜井聖子

副委員長 仲宇佐ゆり 山田眞嗣

委員 石井育子 井上佳央里 下田まり子 真銅健嗣

西川博泰

(若干名を交渉中)

<CM部門委員会>

委員長 家田利一

副委員長 風間恵美子

委員 伊藤健志 岡野敏之 片桐 理 齋藤千明

佐藤義浩 生野 徹 中橋 敦 野上信子

平岩モトイ 藤掛真里 柳 志岐

<報道活動部門委員会>

委員長 古川柳子

副委員長 市村 元

委員 浅井賢二 飯野芳一 石田研一 一瀬悦子

齊藤潤一 塚本 茂 長谷川達哉

2. 第61回ギャラクシー賞(2023年度)の選考と贈賞式を行います(2023年度委員会が担当)。
3. 第62回ギャラクシー賞(2024年度)の選考を行います。
4. 2024年度の運営方針は以下のとおりです。



テレビ、ラジオを取り巻く環境はますます厳しくなっています。ネットによる動画配信サービスが年々拡大するなか、放送メディアならではの優れたコンテンツがこれまで以上に求められています。

そうしたなかで、ギャラクシー賞への応募作品数はここ数年着実に増えています。60周年を迎えた昨年度は4部門全体で846本の応募がありました。斬新で意欲的な作品が数多く寄せられました。

今年度も選奨にあたっては、各部門委員会が真摯で活発な討議を重ね、より厳正で慎重な審査と的確で質の高い選評に心がけます。

また選奨委員による選評や講評、話題などを月刊誌「GALAXY」に掲載し、作品への評価を分かりやすく丁寧に発信していきます。さらに「入賞作品を聴いて制作者と語り合う会」や「入賞作品を見る・聴く会」などについては、制作者と視聴者をつなぐ場やギャラクシー賞をPRする場として位置づけ、開催を検討します。

なお、配信コンテンツへの対応については、昨年度からCM部門の審査対象に「ウェブCM」をあらたに加えました。他部門については、今後のメディア環境や他団体の審査対応なども勘案しながら、ひきつづき検討していきます。

1) テレビ部門委員会の運営

ギャラクシー賞創設から62年、激変するメディア環境のなか、テレビ番組の視聴スタイルも大きく変化しました。動画配信サービスでの視聴が主流となり、地域や系列、時間の壁を超え、誰もが見たい番組を自由に選択できる、そんな時代に近づきつつあります。私たちテレビ委員会は、活発な批評活動を通して、進化し続けるテレビを見つめ、寄り添い、制作者と視聴者を繋ぐ役割を担います。さらに、報道、ドキュメンタリー、ドラマ、バラエティなどのジャンルを問わず、キー局、ローカル局の隔たりなく、テレビ番組の向上と発展に貢献すべく、真摯で活発な選奨活動を目指します。



① 定例月評会の開催

毎月、月評会を開催し、各委員がそれぞれの視点から評価した作品を推薦し、「月間賞」を選定します。また、月評会に向け、テレビ委員間の掲示板を通して情報共有に務め、見逃し視聴などの機能を活用し、幅広い番組視聴を心がけ、議論することに務めていきます。また、個々の番組評価に留まらず、番組表現の在り方や、時代性など、テレビ放送全般の傾向についての考察を「私評」に反映させていきます。

② ギャラクシー賞の選定

年2回、エントリーされる応募作品から上期、下期それぞれ「入賞」「奨励賞」を選定。これに「月間賞」を加えて、年間の「大賞」「優秀賞」「選奨」「特別賞」「個人賞」を決定します。全国の地上波局、衛星放送局、ケーブルテレビ局の特性を尊重しつつ、新しい視点、時代を射抜く眼差し、作品性と映像表現などを丁寧に評価、制作者の志や情熱を受け止め、多様性や公平性を重視し、社会に発信する機会となるような選奨を心がけます。

③ 月刊誌「GALAC」での講評活動

月間賞やギャラクシー賞選考の過程・結果を「GALAC」誌の選評・私評などを通して発信。制作者へのエール、気づきに繋がるような論評に務めます。また、制作者インタビューなどの機会を通して、制作者とのコミュニケーションにも努めます。

2) ラジオ部門委員会の運営

ラジオには災害時はもとより、人々と日々の生活を共にし、地域に密着した情報発信、興味や話題を共有し、文化を維持、発展させる役割があります。音楽配信サービスやポッドキャスト、個人でコンテンツを配信する音声プラットフォームなど、多様化する音声メディア市場のなかで、radikoをはじめとするアプリを活用し、スマートスピーカーやワイヤレスイヤホンで楽しむなど、聴くスタイルも変化してきました。2025年にラジオは日本での放送開始から100年を迎え、近年ではAM放送の休止やFM転換など業界の動きも注目されています。副委員長を二人体



制とし、情報収集と委員会活動の拡充を図り、ラジオの現在地を検証しつつ、多様な作品を発掘し、制作者を応援します。

① 定例合評会

毎月1回の定例合評会を開催します。音声メディアの多様化で、その評価のカギとなるのがコンテンツ＝「番組の力」です。日常的に番組と向き合う定例合評会は重要と考えています。これまで同様に、全国のAM局、FM局、コミュニティFM局の全番組を対象に、聴取番組を選び、議論し評価します。さらに放送局由来のオリジナルポッドキャスト番組にも注目していきます。放送を中心として、SNS、YouTubeなど他メディアとの連動を積極的に活用している点なども議論し、合評に反映します。合評会の内容は「GALAC」誌で公開します。

② ギャラクシー賞およびDJパーソナリティ賞の選考

昨年度の応募本数は、94本で聴き応えのある番組が多くありました。

これまでと同様に、上期、下期の「生ワイド」「音楽・エンターテインメント」「ドラマ」「報道・ドキュメンタリー」への応募作品から、優れた作品を評価し、入賞作品を選定、年間の「大賞」「優秀賞」「選奨」「奨励賞」を決定します。制作者を応援し、次の作品の制作意欲につなげてもらうための選奨を行います。DJパーソナリティ賞は、毎月の定例合評会でも候補者の情報収集し、選考します。

③ 「GALAC」誌での活動

優れた番組や出演者を発掘し、ラジオと音声コンテンツの魅力と話題を発信します。

「合評報告」はさらに充実させます。局の顔でもある「生ワイド番組紹介」では、全国の放送局を12のブロックに分け、地域ならではの個性豊かな番組やDJパーソナリティの発掘へとつなげます。「ラジオデイズ」は、各委員の視点から、ラジオへの提言、問題提起、また「日本でのラジオ放送100年」「AM放送のFM転換」など業界の動き、ラジオ音声コンテンツ市場の動き、



気になる人物などを取り上げます。

④ 「ギャラクシー賞入賞作品」を聴く

コロナ禍以前に実施していた「ギャラクシー賞入賞作品を聴いて、制作者と語り合う会」は、リモート、対面、ハイブリット方式など開催方法を検討します。

また、受賞作品をより多くの人に聴いてもらうための方法を受賞局と連携して取り組みたいと考えます。

3) CM部門委員会の運営

CMの状況はますます複雑になってきています。制作手法の多様化、ウェブCMの拡大など、さまざまな変化を見ることができます。私たちは、CMの社会的・文化的価値や効果を適正に評価しつつ、クリエイティブに挑戦する作品を発見し、批評することに注力していきます。CM委員会では以下の活動を通じ委員会運営を強化いたします。

① 月例定例会を毎月1回開催します

委員各々が3本ずつリストアップしたテレビCM、ラジオCM、ウェブCMを、多角的な視点から検討し、活発に批評活動を行います。リアルな会合を基本にしなが、参加できない委員にはハイブリッドで対応していきます。会場については、事務局とも相談の上、できるだけ少ない費用で実施できる場所を探します。また（特に初年度においては）新委員との交流を深めるように努めます。

② ギャラクシー賞CM部門の選考を行います

選考会は、リアルな対面方式で、活発な意見交換を行いつつ選考します。クリエイティブ力のある作品、企画力のある作品、感銘をあたえる作品、時代をリードする作品を発掘・評価していきます。すでに第60回からは、ウェブCMを応募対象に含めました。これにより、幅広い領域からの作品の発掘が可能になりました。



③ 「GALAC」誌への掲載

毎月の定例会のピックアップした作品を「GALAC」誌面に反映できるようにしていきます。推奨される約30作品中、その時々々のテーマを設け、CMトピックスとして3作品、モニタールームに4作品、アラカルトに10作品を掲載し、一層の充実を図っていきます。トピックスでは、担当委員が、制作の映像表現、音声表現、企画演出、メディアやターゲット、情報としての価値やニュース性、新しいCMスタイルなど、さまざまなテーマや切り口から、推奨作品を批評します。

④ 現状での選考は「ノンセクション審査」です

前期からテレビCM、ラジオCMに加えて、ウェブCMも対象になりましたが、13本の選奨のバランスも大切だと考えています。

⑤ 広報活動により、応募の数を増やしたいと考えています

そのための活動は何かを考え、積極的に動いてみたいと思っています。1月24日には「渋谷のラジオ」に出演し、ギャラクシー賞の話題を取り上げました。今後は、過去に行われていた「ギャラクシー賞入賞作品を見る・聴く会」の実施などを検討するつもりです。

4) 報道活動部門委員会の運営

報道活動部門委員会は個々の番組単体の評価のみならず、一連の報道活動全体に着目し放送ジャーナリズムの活性化に寄与することを目的としています。番組内の特集やシリーズ企画、長期間におよぶ調査報道、局全体でのキャンペーン企画、他メディアと連動した挑戦的な試み、新しい技術を活用した報道手法の開拓など、多様な報道活動を評価の対象とし、制作現場の意欲を後押しできるような運営を目指します。

① 報道活動に関する情報収集・共有・発信

日頃から各委員がそれぞれのアンテナで、放送局（地上波・衛星波・ラジオ・ケーブル）の報道活動に注目し、収集した情報を共有します。日常的に委員会のネット掲示板などを活用し、年数回



(現行2回) 情報交換会を実施します。また、「GALAC」のコラム「報道活動部門トピックス」を通して、注目される報道活動を委員の輪番で紹介し、多方面からのギャラクシー賞応募促進にもつなげていきます。

② ギャラクシー賞の選考

年に2回(上期・下期) ギャラクシー賞への応募を募り、委員会での選考審査を経て大賞1本、優秀賞2本、選奨3本を選びます。報道活動の内容自体もさることながら、その背景やプロセスなどにも目を配り、公平かつ厳正な選奨に務めます。選考の結果は贈賞式にて発表し、その過程や選評について「GALAC」誌上で掲載します。

③ 「報道活動」について考える場づくり

メディア環境が大きく変わり「報道活動」自体も多様になってきている一方で、テレビ報道の在り方が問われる場面も多くなっています。選奨や講評、現場制作のインタビューなどの運営を通して、現場の挑戦を応援するとともに、「報道活動」の在り方を共に考える契機を作っていきたいと考えます。



2024年度企画開催事業計画

1. 2024年度は下記の委員で運営します。

委員長 長井展光

副委員長 渡邊 悟

委員 新川周平 樋口喜昭 平岩 潤

(若干名を交渉中)

2. 放送の今日的課題をめぐるシンポジウム、セミナー・研究会などを企画・立案・実施します。

3. 本年度の運営方針は以下の通りです。

- (1) 幅広く、タイムリーにテーマを設定します

放送を取り巻く課題や環境は大きく変化し続けています。「テレビ離れ」が言われる中、厳しさを増す経営環境、放送行政の変化、「メディアの沈黙」で問われた報道姿勢、公共放送のあり方、地域のメディアとしての放送のあり様……。放送ジャーナリズム、放送文化、経営問題などを幅広く視野にいれ、放送メディアが直面するさまざまな課題についてタイムリーに議論し、発信するように努めます。

- (2) 対面でより深く、オンラインの利便性も

開催方法等については、コロナ禍の間、ポストコロナ期にはオンライン形式のセミナーを開催してきました。2023年度以降は日々の生活、ビジネスは旧に復した感がありますが、他方、定着したオンラインによるセミナーは各地在住の会員・参加者に新たな参加の機会を生み出しました。中規模のセミナーを年間1～2回開催する方向を考え、対面開催、またオンラインの併用により充実した内容、参加しやすい開催態様を追求していきます。

- (3) 他の委員会との連携を一層強化します

選奨事業委員会（テレビ、ラジオ、CM、報道活動の各部門）や出版編集委員会（「GALAC」）と積極的に連携し、相乗効果で発信力の強化を目指します。



2024年度広報委員会事業計画

1. 2024年度は下記の委員で運営します。
委員長 滝野俊一
副委員長 国枝智樹
委員 汲田亜紀子 芝崎終祐 西川博泰 西森路代
柳川素子
(若干名を交渉中)
事務局 中島好登 齋藤茜里
2. 公式ホームページやSNS（X／旧ツイッター、インスタグラム、フェイスブック）や、YouTube公式チャンネルを使った広報活動に、さらに力を入れます。
3. 「ドラマ座談会」や「GALAC」記事、インタビュー動画といったオリジナルコンテンツの強化など、公式ホームページのコンテンツのさらなる充実を図ります。
4. YouTubeライブ配信を、第61回ギャラクシー賞贈賞式でも実施します。贈賞式当日の受賞者動画インタビューもさらなる充実を目指します。
5. 第61回ギャラクシー賞贈賞式でも取材対応を担当します。
6. 準会員制度「放送批評懇談会 オンライン会員 Gメンバー」（以下、Gメンバー）の運営を行います。
7. 2024年5月より、Gメンバーの更新手続きを変更します。
Gメンバーサイトのメンテナンス費用、セキュリティ強化費用の増大に伴い、1000ポイント獲得で年会費無料のところを、1000ポイント獲得で年会費半額（500円）の設定に変更します。
8. Gメンバーと正会員によるマイベストTV賞の月間ノミネート番組の投票を実施します。そして、「第18回マイベストTV賞

NPO放送批評懇談会



第20回通常総会 2024

グランプリ」を決定し、第61回ギャラクシー賞贈賞式で表彰します。

第六号議案

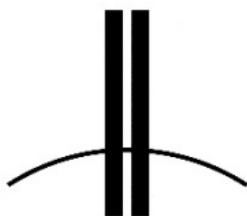
放送批評懇談会

2024 年度収支予算

2024年度予算

2024年1月1日～12月31日まで（単位：円）

科目	2023決算	2024予算額	備考
I. 収入の部			
1. 会費等収入			
会費収入	3,053,117	3,000,000	正会員会費
維持会費収入	41,125,001	42,500,000	維持会員会費
Gメン-会費収入	551,957	300,000	Gメン-会費
2. 事業収入			
選奨表彰事業収入	36,202,477	36,000,000	参加料, レプリカ販売, 会費
企画開催事業収入	643,000	650,000	セミナー参加料
周年事業収入	8,780		
3. その他の収入			
出版編集事業収入	6,804,282	6,800,000	GALAC販売
広告料収入	1,355,000	1,550,000	GALAC広告
4. 雑収入			
受取利息	920		
当期収入合計	89,744,534	90,800,000	前年比101.2%
II. 支出の部			
1. 事業費			
選奨費	7,418,622	7,500,000	委員会, レプリカ, システム維持管理
式典費	14,064,476	13,500,000	ギャラクシー賞贈賞式開催費
企画開催費	450,764	450,000	委員会運営, セミナー経費
原稿料	5,369,067	5,400,000	GALAC原稿料
編集費	4,054,481	4,100,000	委員会運営, GALAC編集費
雑誌印刷費	18,420,380	18,500,000	GALAC印刷費
発送費	2,470,986	2,500,000	GALAC発送費
2. 管理費			
給料手当	23,322,988	24,000,000	職員給与
人件費	120,200	400,000	臨時・契約職員
法定福利費	3,317,895	3,500,000	社会保険など
福利厚生費	275,631	100,000	残業飲食, 職員福利厚生
旅費交通費	523,001	500,000	通勤費・交通費, 役員交通費
通信費	591,747	600,000	郵便, 宅配便, 電話, ネット
資料費	53,040	50,000	新聞, 雑誌, 書籍
会議費	142,214	150,000	総会, 理事会などの会議費用
水道光熱費	273,710	280,000	水道代, 電気代
事務用品費	70,291	70,000	事務用品, PCソフト
消耗品費	205,028	200,000	コピー機使用料, 日用品
備品費	938,367	500,000	映像音響機器, PC関連機器
諸印刷費	420,090	460,100	封筒, 名刺など
広報費	1,757,508	1,000,000	HP維持, Gメン-管理, 日韓中
支払手数料	255,334	250,000	振込手数料, 事務所更新手数料
賃借料	3,999,139	4,000,000	事務所賃借, コピー機レンタル
保険料	385,760	390,000	保険（退職金補填）, 火災保険
交際費	118,926	100,000	冠婚葬祭
雑費	1,001,480	1,000,000	税理士, 社労士, NHK, WOWOW, JCOM
諸会費	151,644	150,000	友好団体会費
租税公課	53,500	70,000	法人都民税, 収入印紙
消費税		79,900	2021年度を対象に課税
退職給付引当金繰入	1,000,000	1,000,000	毎年100万円の積み立て
志賀基金繰入			
当期支出合計	91,226,269	90,800,000	前年比99.53%
当期収支差額	△ 1,481,735	0	



NPO／特定非営利活動法人

放送批評懇談会

〒160-0022 東京都新宿区新宿 5-10-14 中村ビル 2F

Tel. 03-5379-5521 Fax. 03-5379-5510

kondankai@houkon.jp <https://www.houkon.jp/>